

一一〇〇二年出土の木簡

概要

本号には、昨年の研究集会で「一一〇〇三年全国出土の木簡」として報告したものを中心に、九四の遺跡から出土した木簡の釈文と遺跡の概略を掲載することができた。加えて、本誌の創刊以前に木簡

が出土した遺跡の報告を二件、本誌既掲載の木簡出土遺跡のうち新たに顯著な釈文の変更が認められるものを四件、都合一〇〇件の遺跡についての報告を収録している。ご多忙の中、貴重な原稿をお寄せいただきいた執筆者の方々、木簡出土情報の公開にご尽力いただき関係機関に対し、誌面を借りて、心からお礼申し上げたい。

九四件という報告件数は、本誌第二二号（一一〇〇〇年）の九二件を超えて、これまでの最多を更新することになった。ただ、九四件のうち、二〇〇三年（一部二〇〇四年を含む）に木簡が出土した遺跡は三分の一程度であり、多くの事例は二〇〇二年以前出土の木簡を報告するものである。従って、年ごとの木簡出土遺跡数や出土点数は、ここ数年漸減傾向にあると理解しておきたい。

本号掲載の木簡出土遺跡は、別表に掲げた通りである。木簡の年代で整理すれば、重複を含め、古代二八件、中世三四件、近世三六件、近代五件となる。中世・近世木簡出土遺跡の増加は近年の顯著な傾向といえるが、それに加えて、出土遺跡や木簡の記載内容そのものも多様化している点は、見過ごせないと思われる。

ところで、木簡学会の創立から四半世紀を経た一一〇〇三年度には、木簡研究の上で特筆すべき成果が相次いで上梓された。その第一は、木簡学会編『日本古代木簡集成』（財東京大学出版会、一一〇〇三年五月）の刊行である。学会創立二十周年を記念して企画されたこの図録は、同編『日本古代木簡選』（岩波書店、一九九〇年）以後に出土した全国出土の主要な古代木簡を掲載する、古代木簡様式論の決定版ともいうべき資料集である。原寸を基本とした鮮明な写真が広く提供されたことにより、木簡そのものに即した研究の深化が大いに期待されるところである。

次に、「全国木簡出土遺跡・報告書綜覽」（一一〇〇四年一月。以下「綜覽」と略称）の刊行を取り上げたい。この作業により、全国出土木簡の総数は、一一〇〇二年末までに公表されたもので、九七〇遺

跡三二万点以上に及ぶことが判明した。この量の木簡出土情報の蒐集・整理は、もはや個人の手作業を超えるものであり、ひとえに各地の調査機関、調査担当者の方々の惜しみない協力に支えられていることを再認識させるものである（編集の経緯は本号二五八頁参照）。

また昨年度には、奈良文化財研究所『平城宮木簡六』（二〇〇四年三月）、広島県立博物館『草戸木簡集成』三（二〇〇四年三月）が刊行されたほか、小林昌一ほか編『新潟県内出土古代文字資料集成』（二〇〇四年一月）が県内出土の古代文字資料を集成するなど、長年にわたる整理と研究の成果が学界に共有された。最新の成果や『綜覽』掲載の報告書などの活用により、出土遺構や遺跡、さらには地域に密着した木簡の研究が展開されることを期待したいと思う。

以下、本号に掲載した木簡を時代を追つて概観する。

古代の木簡は、昨年に引き続き藤原宮期以前のものが目を惹く。奈良県藤原京跡では、木簡は二カ所の調査で出土した。左京一・二条四・五坊出土木簡は、「穗積親王宮」の名がみえる断片や「和銅二年」の年紀木簡である。木簡廢棄主体の性格や遺構の解釈など、残された課題も多い。また、左京北四・五条一坊からは、「山司」「倭令」なる官名が記された木簡が出土した。奈良県石神遺跡（第一五次）の報告は、一昨年の調査で出土した主要な木簡の訳文を掲載。飛鳥寺南方遺跡出土木簡は、断片が多く文意は詳らかにし得ないが、七世紀木簡の特色を備えるものという。一方、大阪府難波宮

跡でも、七世紀木簡は二カ所の調査から出土した。「日子」と記された木簡は、いわゆる六朝風の書風を備えており、伴出土器の年代観とも矛盾しない。また、もう一カ所の調査で出土した木簡は、大量の漆付着土器が伴出し、西方官衙（大藏推定地）との関連が注目される。

奈良時代以降の古代木簡では、都城からの報告は、平城京跡出土の三件と後期難波宮跡出土の刻書木製品のみで、やや寂しいとの感が否めない。これに対し、都城遺跡以外の出土木簡は、内容が豊かである。大阪府久宝寺遺跡出土木簡は、「石津連乎黒万」の名が記された文書木簡である。静岡県土橋遺跡出土木簡は、「二斗五升」と記された断片。官衙遺跡の様相を呈する墨書土器とともに注目され、遺跡の性格の解明が俟たれる。埼玉県北島遺跡出土木簡は、習書の具体的な方法が窺われる資料。地方官衙における文字習熟の実態に迫る資料として貴重である。福島県門田条里制跡出土木簡は、「大川度」と訳読でき、阿賀川の渡にかかるものと推測される。山形県古志田東遺跡では、「田人」「丁」などの語と人數を記した記録簡（帳簿）や題籤軸、四五〇点余の墨書土器などが出土しており、官衙関連施設における大規模な労働力徵発の様が窺われる資料といえる。青森県新田（一）遺跡出土木簡は、現在知られる最北の古代木簡である。「忌札見知可」と記された物忌札は注目に値するが、その評価や遺跡の性格は、大量に出土した木製品・祭祀遺物の理解

と不可分であり、調査の進展に期待したい。島根県青木遺跡出土木簡は、多数の荷札木簡とともに、「売田券」木簡・題籤軸・封緘木簡など、土地売買や文書管理など官衙関連施設の存在を示唆する一群を含んでいる。八〇〇点以上にのぼる墨書き器とともに注目される。山口県長門国分寺跡出土木簡は、「領（うながし）」の活動を示す文書木簡。徳島県觀音寺遺跡出土木簡は、美馬郡（美間郡）を指すかと思われる「三間」の習書である。また、富山県小杉流通業務団地No.20遺跡からは、四角柱の各面に漢数字ないし墨線を記したサイコロ状木製品が出土した。

次に、中世木簡を概観する。まず中世都市鎌倉の遺跡から、神奈川県北条泰時・時頼邸跡、永福寺跡、佐助ヶ谷遺跡の報告が届いたことを特記する。『綜覽』によると、鎌倉市内の木簡出土遺跡はその過半が本誌未掲載で、出土情報の網羅的蒐集と本誌への反映が長年の懸案となっていた。次号以降にも継続的に掲載すべくご準備いただいており、研究の深化が期待される。

文書木簡では、仮名書きの木簡が、新潟県下前川原遺跡、福岡県在自西ノ後遺跡から出土した。いずれも釈読できる文字は多くないため、文意は詳らかにし得ない。

一方、今年も、信仰・仏教にかかる木簡が、豊かな事例を蓄積している。栃木県樺崎寺跡出土柿経は、これまでの調査での総点数が二二〇〇点を超える一大資料群であるが、中世と近世の遺構面で、

書写内容の異なる資料が出土しており、その時期的な差違が注目される。徳島県敷地遺跡出土の柿経は、出土総数が小破片を含めて二二八九点に及び、その出土状況からは、束ねられたものが水流の影響をうけて散らばった様をみてとれると報告されている。以下、詳細は本号をご熟読いただくこととし、信仰・仏教にかかる木簡の出土した遺跡名を列記する。柿経は、京都府鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡、愛知県清洲城下町遺跡、埼玉県神明遺跡。卒塔婆・笠塔婆は、兵庫県入佐川遺跡、愛知県清洲城下町遺跡、同大毛沖遺跡、福島県荒井猫田遺跡、富山県井口城跡。蘇民将来札は、大阪府玉櫛遺跡、兵庫県対中遺跡。呪符木簡は、兵庫県玉津田中遺跡、富山県中名VI遺跡、同任海宮田遺跡、同水橋金広・中馬場遺跡、岡山県鹿田遺跡、佐賀県牟田口遺跡。転読札は、京都府中世勝龍寺城跡。以上の各遺跡から出土している。信仰・仏教にかかる木簡の形態論的研究も進められていると仄聞する。

近世に目を転ずると、今年も城跡・城下町跡からの報告が相次いだ。大阪府大坂城跡出土木簡は、大坂冬の陣後の城郭破却にかかる資料と推測されている。兵庫県明石城武家屋敷跡出土木簡は、一九八五年以来の一二カ次に及ぶ調査で出土した二八点が一括して報告された。江戸城下町の遺跡としては、東京都水戸藩徳川家小石川屋敷跡、同旗本岩瀬家屋敷跡、同竜泉寺町遺跡、同台東区No.68遺跡出土木簡などの報告が届いた。そのほか、これまで出土地の列举に

2003年出土の木簡

遺跡名	所在地	点数	木簡の年代	遺跡の性格
平城京跡左京三条三坊十一坪	奈良県奈良市	3	古 代	都 城
平城京跡右京北辺	奈良県奈良市	1	古 代	都 城
○平城京跡右京四条二坊二坪	奈良県奈良市	1	古 代	都 城
法華寺	奈良県奈良市	10	近 世	寺 院
旧大乗院庭園	奈良県奈良市	6	近 代	園
藤原京跡	奈良県橿原市	134	古 代	城 殿
○石神遺跡	奈良県明日香村	2650	古 代	都 宮
※○飛鳥寺南方遺跡	奈良県明日香村	21	古 代	官 衛
○鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡	京都府京都市	15	中 世	居 院
※ 東福寺常楽庵庫裏	京都府京都市	1	近 世	館
○中世勝龍寺城跡	京都府長岡京市	1	中 世	城
難波宮跡(1)	大阪府大阪市	1	古 代	都 城
難波宮跡(2)	大阪府大阪市	8	古 代	都 城
大坂城跡	大阪府大阪市	約60	近 世	城下町・城郭
※○九頭神遺跡	大阪府枚方市	1	中 世	集落
※○奈良井遺跡	大阪府四條畷市	1	中 世	集落・祭祀遺跡
○玉櫛遺跡	大阪府茨木市	2	中 世	自然流路
※○久宝寺遺跡	大阪府八尾市	1	古 代	落
※○兵庫津遺跡	兵庫県神戸市	7	近 世	落
○玉津田中遺跡	兵庫県神戸市	1	中 世	落
※○北村廃寺	兵庫県伊丹市	1	中 世	院
※○有岡城跡・伊丹郷町遺跡	兵庫県伊丹市	1	近 世	墓地
○明石城武家屋敷跡	兵庫県明石市	28	近 世	館
※○対中遺跡	兵庫県三田市	1	中 世	落
○入佐川遺跡	兵庫県出石町	1	古 代	水田・集落
○清洲城下町遺跡	愛知県清洲町	334以上	中 世	町
○大毛沖遺跡	愛知県一宮市	2	古代～中世	城下
○土橋遺跡	静岡県袋井市	1	古 代	村落
○北条泰時・時頼邸跡	神奈川県鎌倉市	2	中 世	館
※○永福寺跡	神奈川県鎌倉市	2	中 世	院
※○佐助ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市	28	中 世	寺
水戸藩徳川家小石川屋敷跡 (春日町遺跡第VII地点)	東京都文京区	2	近 世	寺
※○旗本岩瀬家屋敷跡 (新諏訪町遺跡)	東京都文京区	2	近 世	大名屋敷
※○竜泉寺町遺跡	東京都台東区	4	近 世	旗本屋敷
※○台東区No.68遺跡	東京都台東区	1	近 世	大名屋敷
※○馬場下町遺跡	東京都新宿区	5	近 世	院
※○元町二丁目遺跡	埼玉県川越市	2	近 世	屋市
※○神明遺跡	埼玉県行田市	500以上	中 世	館
※○北島遺跡(第一九地点)	埼玉県熊谷市	3	古代・近代	落町
※(○)松本城下町跡六九	長野県松本市	16	近 世	町
※ 松本城下町跡宮村町	長野県松本市	1	近 世	都
(○)権崎寺跡	栃木県足利市	約400	中世・近世	居集
○荒田目条里制遺構	福島県いわき市	2	近 世	寺
○門田条里制跡	福島県会津若松市	1	古 代	水田・水路
※○東高久遺跡	福島県会津若松市	1	古 代	落
(○)荒井猫田遺跡	福島県郡山市	29	中 世	落館

※○河股城跡	福島県川俣町	1	中	世	城	館			
○仙台城跡(二の丸地区)	宮城県仙台市	78	近世・近代	城郭・軍事施設					
※ 竹ノ内遺跡	宮城県仙台市	1	近	世	落				
市川橋遺跡	宮城県多賀城市	5	古	代	市				
※ 長徳寺前遺跡	宮城県岩沼市	1	近	世	塚				
※○古志田東遺跡	山形県米沢市	61	古	代	敷				
※○大在家遺跡	山形県高畠町	1	古	代	路				
山形城跡	山形県山形市	1	近	世	郭				
※○新谷地遺跡	秋田県本荘市	3	中	世	落				
※○龍門寺茶畠遺跡	秋田県岩城町	2	近	カ	墓				
※ 観音堂遺跡	秋田県仙北町	1	近	世	落				
※ 新田(一)遺跡	青森県青森市	10	古	代	落				
※○津軽氏城跡・弘前城跡	青森県弘前市	10	近	世	落	寺院・集落			
○本町一丁目遺跡	石川県金沢市	2	近	世	落	集落・町屋			
○金石本町遺跡	石川県金沢市	3	近世・近代	路	自然	自然			
○桜町遺跡	富山県小矢部市	5	古	代	落	路			
○石名田木舟遺跡	富山県福岡町	1	中	世	落	集			
※○井口城跡	富山県南砺市	3	中	世	落	城館			
※○小杉流通業務団地No.20遺跡	富山県小杉町	1	古	代	落	館落			
※○中名VI遺跡	富山県婦中町	1	中	世	落	落			
○任海宮田遺跡	富山県富山市	1	中世～近世	落	落	落			
※○願海寺城跡	富山県富山市	2	中	世	落	落			
※ 水橋金広・中馬場遺跡	富山県富山市	4	中	世	落	館落			
※ 小出城跡	富山県富山市	2	中	世	落	館落			
※ 下前川原遺跡	新潟県豊栄市	1	中	世	落	館落			
※○道端遺跡	新潟県荒川町	1	近	世	落	遺物散布地			
※○青田遺跡	新潟県加治川村	1	古代～中世	地	遺物散布地	遺物散布地			
○米子城跡21遺跡	鳥取県米子市	7	近	世	館	館			
○米子城跡	鳥取県米子市	1	近	世	下	町			
※○才ノ崎遺跡	島根県松江市	2	古	代	落	落			
青木遺跡	島根県出雲市	約50	古	代	官衙関連遺跡ほか				
鹿田遺跡	岡山県岡山市	1	中	世	集落・莊園				
○尾道遺跡(KG○七地点)	広島県尾道市	1	中	世	都				
周防国府跡	山口県防府市	1	中	世	市				
○長門国分寺跡	山口県下関市	1	古	代	町院				
○長門国府跡(宮の内地区)	山口県下関市	1	近	世	寺				
○徳島城下町跡	徳島県徳島市	11	近	世	下	町			
○観音寺遺跡	徳島県徳島市	1	古	代	町	町			
(○)敷地遺跡	徳島県徳島市	2289	中	世	自然	流路			
○高松城跡(1)(東ノ丸地区)	香川県高松市	1	近	世	自然	流路			
○高松城跡(2)(丸の内地区)	香川県高松市	4	近	世	城	郭			
○高松城跡(3)	香川県高松市	9	近	世	城郭(武家屋敷)	城郭(武家屋敷)			
(松平大膳家中屋敷跡)									
※○雨窓遺跡群	福岡県苅田町	1	古	代	祭祀遺跡・流路				
○小倉城跡	福岡県北九州市	19	近世・近代	城郭・軍事施設					
※ 在自西ノ後遺跡	福岡県津屋崎町	2	中	世	落				
※○牟田口遺跡	佐賀県佐賀市	1	中	世	落				
※ 炉粕町遺跡 (長崎奉行所立山役所跡)	長崎県長崎市	18	近	世	奉行所				
※○北島北遺跡	熊本県熊本市	2	古代～中世	遺物散布地					

※は木簡新出土遺跡

○は2002年以前出土遺跡

(○)は2002年以前出土もある遺跡

留めるが、山形、弘前（青森県津軽氏城跡・弘前城跡）、高松の各城跡、松本（長野県松本城下町跡六九、同宮村町）、金沢（石川県本町一丁目遺跡）、徳島、長府（山口県長門国府跡）の各城下町跡に加えて、長崎奉行所跡（長崎県炉柏町遺跡）からも当時の生活が窺われる貴重な資料が報告されている。なお、宮城県仙台城跡（二の丸地区）、鳥取県米子城跡、福岡県小倉城跡からは、近世木簡に加えて、軍事施設や鉄道にかかる近代木簡が出土した。近代遺跡から出土する墨書き木製品の扱いは、今後の重要な課題となろう。

城跡・城下町跡以外の遺跡から出土した近世木簡は、やはり仏教にかかるものが目立つ。宮城県長徳寺前遺跡の木簡は、礫石経塚から一四八九七点の礫石経とともに出土した。木簡にみえる「一之巻」は、礫石経に書写された経典と関連するものであろうか。また、京都府東福寺常楽庵庫裏出土木簡は、上端が角錐となる八角柱という特異な形状と建造物半解体工事に伴い出土した点で特筆される。

当学会による現行の定義によれば、木簡は出土遺物に限定され、例えば建物内に伝存する棟札などの類は対象としていない。一方で、今回の事例は確かに出土遺物であり、奈良県法隆寺大講堂や同寺東室の出土木簡に続き（ともに本誌未掲載）、建造物修理工事に伴う出土事例を加えることとなつた。寺院出土の仏教信仰関係資料をはじめとした、多様に存在する近世木簡は、古くからの問題である木簡の定義を、あらためて考える手がかりを与えてくれる。かかる観点

によるならば、今後の情報蒐集では、少なくとも発掘調査を伴う建造物の解体・半解体工事などへの目配りも必要となろうか。

なお、昨年の研究集会で木簡の出土を報告した遺跡のうち、奈良県石神遺跡（第一六次調査）、大阪府高松藩藏屋敷跡、東京都入谷遺跡下谷二一一地点・上車坂町遺跡東上野四一八地点・同四一九地点・豊住町遺跡・台東区No.80遺跡、滋賀県宮町遺跡（第三一次調査）、秋田県久保田城跡・東根小屋遺跡、新潟県吉津川遺跡、岡山県岡山城二の丸跡（県立図書館）、徳島県中徳島一丁目遺跡、長崎県鷹島海底遺跡の報告は、本号には掲載できなかつた。釈読中・整理中であつたり、やむを得ぬ事情でご執筆を断念されるなど理由は様々であるが、できるだけ速やかな本誌への掲載を実現したいと思う。また、長野県松本城三ノ丸跡・松本城下町跡の報告は、整理の済んだ調査から隨時執筆を依頼している。

『総覧』によると、本誌未掲載遺跡は、一九七七年以前に出土したもので六五遺跡一二六件、以後では一二二五遺跡三一九件に及び、その量は本誌数冊分に相当する。その一部は、昨年の研究集会で「一〇〇二年以前全国出土の木簡（拾遺）」として示し、本号でも銳意掲載に努めたが、完載までの前途は多難といわざるを得ない。速やかにとはとてもいえないので、たゆまぬ努力により本誌への反映を果たしたいと考える。調査機関、発掘担当者及び会員諸氏のより一層のご協力を切にお願いする次第である。

（山本 崇）